

らららん5号



2018.6.11

意欲と主体性を大切に

私には、忘れることができない出来事があります。川棚小学校の先生をしている頃(30年くらい前)のことでした。そのとき、私は児童会活動の担当をしていました。子どもたちの代表委員会を運営したり、子どもたちで楽しめる児童集会を計画したりすることが主な仕事でした。子どもたちの話し合いで約束を決めたり、イベントの内容を考えたり、主体的な取り組みができる場が多くありました。しかし、代表で参加した子たちが自分の役割を理解することに時間が掛かることと、何をどのように発言していいのか分からないことなどで、なかなか活発にならないのが悩みでした。確か11月くらいに『年末助け合いをしよう』という話し合いが行われたときです。どんな方法で募金を集めるのか、具体的なことがだんだん決まっているときに、4年生の女子がスッと手を挙げました。「みんながつもり貯金をして、それを募金にしたらいいと思います」みんなピンときませんでした。

「100円のおやつを買ったつもりで50円のおやつを買い、残りの50円を生活の困っている人たちのために貯金をするのです。それを募金したらいいと思います」堂々とその子は言ってくれました。その話し合いが終わったとき、いつもの話し合いと違う雰囲気がありました。つもり貯金の意味を理解したクラス代表の子たちが、学級でどんなアピールをしてくれるか、期待感がありました。でも、例年この募金活動はあまり盛り上がりませんでしたのも事実です。500人程度の児童数でしたが、2万円くらい集まればよいほうでした。結局、この代表委員会の呼びかけに全校児童が共感したのです。それぞれの募金箱がずっしりと重くなりました。最後に体育館で、その募金の全部を集めました。全員が見守る中、お金が砂山のように高く積み上げられました。集まったお金は、1円玉、5円玉、10円玉がほとんどですから、量ほど額が多いわけではありません。でも、紛れもない子どもたちの「つもり貯金」を集めた証でもありました。私は、このとき「子どもがその気になるとすごい力を発揮できる」と感じたのです。量的に簡単に運ぶことができないことと、金額を計算することも難しいので、募金を新聞社へ引き取りに来てもらいました。記者さんが乗るバンの後ろへ何個ものバケツに入れた重いお金を積み込みました。面白かったのは、車のバランスが少し変で、完全にお尻が下がって見えました。車の走り方が滑稽に見えたことです。それから数日して、募金が14万円程度あったことを知りました。

私は幼稚園の子どもたちに、これと同じことを求めるつもりはありません。しかし、自分で何かに集中して取り組み、何かが出来上がったという喜びが感じられる場を設けてあげたいと思うのです。自分の夢や願いを少しずつ叶えることができれば、意欲的な子に育ってくれると思います。今、乳児部は“乳児部だより”で、それぞれのクラスで、だんだんやりたいことが出てきているとありました。やりたいことが少しずつ出てくるのがとてもいいなと思います。もちろん、トラブルもあるでしょうが、友だちの気持ちも考えてくれるといいなと思います。また、幼児部では“クラス通信”や“アプリ配信”で子どもたちの様子をお知らせするようになりました。それぞれのクラスで、子どもたちが疑問

に思うことをみんなで考えたり挑戦したりしています。そんな様子が生き生きと載っていました。今後も「どうなっているのだろう」とか「試してみたい」ということを、みんなが力を合わせて取り組んでほしいと思っています。

先日、周南市で教育振興大会が行われました。そのとき、とてもよいヒントを聴くことができました。『自分から進んで動ける子の育て方』という演題で、神奈川県の子ども・子育てアドバイザーの高取しづかさんが話されました。子どもの「やる気を引き出す！」ためには、自分で考え取り組む楽しさを与えることが、大切だと話されました。しかし、自分で考え何かをすることが苦手な子もいます。こんなときには、「どちらをやりたいの？ AかB？」という聞き方が効果があると話されました。「Aがやりたい」と言ったら、「どうしてAを選んだの？」と自分なりの理由も聞いてあげると、次第に自分の考えがはっきりしてくるようになるそうです。

大人側の親切心か？子どもが失敗しないようにと、行動する前から口をはさむことがよくあります。絶えずそのような干渉を受けると、子どもはやりたいことより、失敗しないことをだんだん優先してしまうようになります。子どもには失敗も大切な経験なのです。振り返って、どこに気をつければいいか、気づくことが大切なのです。また、大人は、結果や成功したことにスポットを当て喜んだりするのですが、それだけでなくその取り組みの態度などを見て「集中して作ったね」とか「ていねいに描いていたね」など、取り組む態度や集中力をほめてほしいのです。少しでも、意欲的な姿勢が見られれば、ほめてあげましょう。自然にほめ言葉が増えていくと、子どもも意欲的になってくれるでしょうと話されました。幼稚園では、子どもたちをほめる場面を多く作って、自己表現ができる子に育てていきたいと思っています。

ジューンベリーの実

栗の木公園の郵便ポスト近くにジューンベリーの木があります。今年は、この木にたくさんの実がなりました。ほのかな甘さがある実は、子どもたちがよく群がっていました。子どもたちの手が届くところは熟した実がほとんどなく、すべり台の上から手を伸ばしたり、あの手この手で工夫していました。5月末には、完熟した実が萎んでしまい収穫時期が意外に短いことを知りました。

実はこの木、こんなことがあって植えられたのです。平成19年7月に園児だった松西優吾君の自宅が火災に遭い、彼の幼い命がなくなりました。このジューンベリーの木は、彼をしのび彼を忘れないために、その年の11月に植えられたものです。今、私たちに命の恵みを与えてくれていると思っています。だから、園児の一人一人が自分の命を大切に、安全な生活をしてほしいと思いました。

このジューンベリーという名は、北アメリカでつけられたそうです。インディアンは、6月頃に緑色から赤色になり、やがて紫黒色になる実をジャムにして食べていたそうです。つまり、6月においしい実をつけることで、ジューンベリーという名になったのです。

